



近藤 大介 議員

「営業企画室」設置の意図は

町長

ふるさと納税の強化をはかる

【近藤】 新年度の施政方針について、今後どのようなまちづくりをめざしているか。

【町長】 就任以来、少子高齢化による人口減少問題を最優先課題として、保育料の3歳以上無償化や高校生の通学費助成など、子育ての負担軽減に取り組んできた。高齢者の外出支援などにも取り組んでいる。

子育てしやすいまち、住んでみたいまち大山町をめざし、人口減少が止まるようなまちづくりをしていきたい。

【近藤】 新設される営業企画室は、どのような意図によるものか。

【町長】 ふるさと納税のさらなる強化、歳入増加をはかっていく。

【近藤】 営業という言葉は行政になじまないのではないか。

【町長】 そういう意識こそ変えていくべきものだと思う。

公園トイレに ベビーチェアを

町長

積極的に検討していく

【近藤】 子育てしやすい環境のため、公園や公共施設のトイレに、ベビーチェアや、男性も使えるオムツ交換台が必要である。整備していく考えは。

【近藤】 仁王堂公園など高齢者の利用の多いトイレは、洋式化や手すりの整備も必要である。

【町長】 多目的トイレではベビーチェアやオムツ交換台の設置を積極的に検討していく。

【町長】 仁王堂公園のトイレは洋式化する。他の施設は優先順位を考えながら順次計画していきたい。



ベビーチェアがあると安心

危険家屋は解体して跡地利用を

町長

空家対策協議会で
議論したい

【近藤】 地域の安全のため、危険家屋の解体に補助金を交付する考えは。

【町長】 平成31年7月1日の施行に向け進めている。

【近藤】 解体後の跡地が、地域の広場や駐車場として有効に活用されるよう、土地を集落に寄付・譲渡することを補助金交付の要件にしてはどうか。

【町長】 危険家屋になっていくものを更地にする中で、いろんな用途が考えられると思う。どのような補助制度にするか、空家対策協議会の中で議論し決めていきたい。



増える空き家が深刻な課題に